

令和6年度がん診療連携拠点病院等「PDCAサイクル評価シート」

部 門		評価項目	Plan(計画) 2024.08
作業部会	がん登録部会	1.がん登録の精度向上を図る	実務者研修会を奨励する。
		2がん登録の重要性を認識する	HPなどを通じて、秋田県のがん医療の実態について広く広報する。
		3がん登録データを活用する	がん登録データに基づく研究を支援し、その成果を広報する。
	緩和ケア・教育研修部会	1 各施設が、緩和ケアの提供体制・緩和ケアチームの活動についてPDCAサイクルによる評価・改善に取り組む。	各施設が、緩和ケアの提供体制・緩和ケアチームの活動についてPDCAサイクルによる評価・改善に取り組む。
		2 がん診療連携拠点病院等と2次医療圏の非拠点病院との連携体制を構築する。	がん診療連携拠点病院等と2次医療圏の非拠点病院との連携体制を構築する。
		3 秋田県内緩和ケアマップの掲載項目を検討し更新する	秋田県内緩和ケアマップの掲載項目を検討し更新する。
	がん地域連携部会	1 がん地域連携クリティカルパスの管理・情報共有	がん地域連携クリティカルパスに修正等がある場合は修正し、秋田県がん診療連携協議会のHPへ掲載する。
		2 秋田県のがん地域連携における課題の調査・抽出	秋田県のがん地域連携の課題についてアンケート調査を行い、結果をもとにディスカッションを行い重点課題を抽出する。
	がん患者相談部会	1 がん相談対応能力向上のため、必要な研修を企画・実施し、均てん化を図る	1-1 地域相談支援フォーラムを企画・実施する 1-2 実施後のアンケートによる評価に基づき、相談対応能力の向上に向けた課題を見出す
		2 がん相談支援センターの認知度向上と周知を図る	2-1 秋田県立図書館連携「がん情報セミナー」を開催する 2-2 公共施設や調剤薬局への広報をおこなう
	化学療法部会	1秋田県における標準的ながん薬物療法の実施	免疫チェックポイント阻害剤の使用状況について調査する
		2がん薬物療法の効率的な運用についての支援	秋田大学医学部附属病院で承認されたプロトコル、および関連資料をHPで公開し、県内がん拠点病院における化学療法プロトコルの作成、運用を支援する。
		3がん薬物療法の安全な運用についての啓蒙	免疫チェックポイント阻害剤の有害事象について、各拠点病院にアンケート調査を行い、事例を共有する。
	AYA世代がん医療部会	1AYA世代がんの悉皆調査を行う	秋田県内の”がん拠点病院”を受診した全てのAYA世代がん患者について基本情報について電子カルテベースで登録する
		2AYA世代がんの治療実態を調べ、治療アウトカムを評価する。	登録されたAYA世代がん患者の治療状況について電子カルテベースで調査する。
		3AYA世代がん患者の生活実態を調べる。	AYA世代がん患者の生活実態を調査し、社会的な支援のあり方について検討する。
	がんゲノム医療部会	1.がんゲノム診断の精度向上を図る	スキルアップとして、がん遺伝子関連の各種研修会への参加について、情報提供して参加を促すこと。 エキスパートパネルへの参加を行い、実務を深めること。 秋田大学単独のエキスパートパネル開催に向けての環境整備を行なっていくこと。 過去に施行されたデータをもとに、新たな情報提供することについての、体制を整えること。
		2.がんゲノム診断の認知度を高める	県内医療機関を中心に、がんゲノム関連の研修会実施する。 ゲノム診断・医療に関する情報の均てん化に努める。 がん遺伝子パネル検査件数の増加を目指す。 大学外からの紹介患者数の増加を目指す。
		3.遺伝性腫瘍の認知度を高め、サポート強化に努める	秋田大学遺伝子医療部との連携を行い、がん遺伝子パネル検査における二次的所見の取り扱いや生殖細胞系列の遺伝子異常に対する対応の周知や患者サポート体制を強化していく
	放射線療法部会	1 各拠点病院等の放射線療法の実施状況を調査する	各拠点病院等の放射線療法の実施状況をアンケート調査する。
		2 県内における緩和的放射線療法の需要と課題を調査する	県内の医師を対象に、緩和的放射線療法の対象となる患者数とその病態、および、緩和的放射線療法を提案する際の障壁についてアンケート調査する。
		3 最新の放射線療法についての情報を県内で共有する	医療者、市民を対象とした放射線療法のセミナーを開催する。

部 門			評価項目	Plan(計画) 2024.08
拠点 部 病 院 等	大館市立総合病院	放射線治療	1放射線治療後の有害事象に対するの他部署や他施設との連携の強化	看護の視点やケア・治療継続事項の共有を行う ・院内看護サマリーの活用 ・院外ケアマネ・ヘルパーとの関わり強化 ・院外施設へ有害事象・ケアの共有 ・治療に携わるスタッフとのカンファレンス
			2放射線治療を受ける患者のセルフケア能力の向上が出来る関わりを持てるスタッフ育成	放射線療法の基礎知識の向上に向けた取り組み ・がん看護研修-基礎 放射線療法看護の応用知識の向上に向けた取り組み ・がん看護研修-応用編 ・リンクナース会での研修 ・部署研修
		化学療法	1 がん薬物療法体制充実加算の算定	医師・薬剤師・看護師と連携し、算定のための体制作りを行う ・患者情報の収集・評価及び医師との情報共有についての手段やツールなど検討する ・診察前の処方提案を実施する
			2 外来化学療法の体制整備を行い、市民へ周知する	外来化学療法に関する掲示事項を踏まえ、患者の視点に配慮し、整備し、その内容を関係部署と連携し、ホームページ上へ掲載する
		がん登録室	1がん登録実務者の人材育成	・初級実務者は1件でも多く登録して実務に慣れる、 また、中級実務者の資格取得を目標にする ・中級2年目の実務者は、初診に戻ってより詳細なデータの登録を心がける ・中級12年目の実務者は、自分の業務に励むと共に上記2名の支援・指導に誠実に取り組む
			2がん登録の精度向上	・国がん・東北がんネットワークのがん登録研修会(特に登録部位の解剖についての研修会)に実務者全員で参加し、スキルアップする ・登録データの病期不明の件数を少なくして、より正確なデータを提出する
			3がん登録データ解析・利用	・当院のがん統計に、本格的に四国がんセンターの統計方式を取り入れて解析していく ・がん登録そのものを周知する意味でも、当院の職員に院内がん登録のデータを利活用してもらう
		がん相談	1がん診療及びがん相談の広報・啓発の充実	今年度より変更となる予定の県がん相談員担当者会内の「活用促進WG」に参加予定であるため、がんサポートハンドブックの普及や啓発がんコーナー、栗盛公立図書館を活用した広報・啓発について取り組みを実施する。
			2長期療養者就労支援事業による出張相談会の院内周知の実施	例年よりハローワーク大館と協定して実施している長期療養者就労支援事業の出張相談会について、相談会の実施件数を増加させるため、各科外来、病棟へ周知用のポスター等を作成し、院内周知を行う。
		緩和ケア	1早期に基本的緩和ケアを実施し、専門的介入へつなぐ	苦痛のスクリーニングを実施する。 【がん患者】 実施率:80% 基本的緩和ケア提供実施率:80% 【非がん】(うつ血性心不全) 実施率:80% 基本的緩和ケア提供実施率:50%
			2病状説明・告知に同席し患者の意思決定支援を行なう	外来/病棟にて患者の意思決定を支援する ・がん告知や病状説明時に認定看護師が同席し、医師の説明補足、精神的ケア、意思決定支援を実施する ・継続的に支援が必要な場合は複数回介入していく ・再発、BSC方針となった場合も必要時介入する 【外来】看護専門外来の名称で、化学療法・放射線療法・緩和ケアの認定看護師が同席する 看護専門外来の依頼件数:236件/年(昨年度)
	秋田厚生医療センター	がん登録	1.がん登録の精度向上を図る	・がん登録の精度向上のために積極的に各種研修会に参加する。
			2.自施設のがん登録データを解析する	・自施設のがん登録データを解析し、院内への周知を強化する
			3.がん登録データの認知度を高める	・がん登録データの認知度を高める。 ・当院HPや年報等へのデータ掲載を継続する
		緩和ケア・教育研修	1緩和ケアセルフチェックプログラムへの参加を継続し、課題改善に取り組む	・緩和ケアチームの目標設定を明確にするため、依頼元とのカンファレンスで、症状緩和の程度と到達目標を共有しカルテ記載する。 ・カンファレンスの度に目標に対する評価を行い、必要時は修正・変更する。 ・介入中は上記を継続する。
			2緩和ケアチームとしてアドバンス・ケア・プランニングを含めた意思決定支援の体制づくりに取り組む	・緩和ケアチーム介入中の患者や家族の意思や希望が反映されるカルテ記録の方法を再検討する。 ・上記を院内ACPサポートチームと協働し実践する。
		がん地域連携	1医科歯科連携の実施件数増を目指す	・秋田市歯科医師会と連携を密にし参加歯科医院の拡充などを働きかけ実施件数増を目指す ・南秋地区への拡大を目指す
			2がん診療連携拠点病院研修会の実施	・がん診療連携拠点病院研修会の実施
		がん患者相談	1がん相談の対応の質の向上のために、がん相談員研修会に参加する	・がん相談員研修会に参加することで、がん相談対応能力の向上をはかる
			2がんサロンと就労支援活動の継続	・がんサロンの開催継続 ・ハローワーク秋田と連携し患者の就労活動を支援する
			3患者さんや家族などが利用しやすい医療情報センターの環境整備を行う	・医療情報センターの環境を整備する ・がんに関する情報冊子などを見直す
		放射線治療	1年間放射線治療件数200件以上を維持する	・がん診療連携拠点病院に必要とされる年間放射線治療件数200件以上を維持する
			2Ⅰ期肺癌および転移性肺癌に対する体幹部定位放射線治療件数5件を目指す	・秋田県の高齢化に対応するために、耐術能なしと判定されたⅠ期肺癌および転移性肺癌に対する体幹部定位放射線治療の適応拡大に努め、年間件数5件以上を目指す
		化学療法	1保険薬局の連携の現状に合わせた患者指導の検討	・保険薬局の連携の現状を評価し、患者指導や連携用紙について検討する。連携充実のためホームページ上で公開しているレジメンの更新を行う。
			2がんに関する知識と専門性を有する薬剤師の育成	・がん医療に携わる専門的な医療従事者の教育・育成を行い、認定資格保有者の増員を目指す
			3 外来化学療法の安全投与管理と件数の維持	・外来化学療法の安全投与管理と件数の維持
			4看護外来の利用患者数増加	・医師・外来看護師と連携を図り、相談の依頼を受ける ・治療開始前の病状説明に参加するとともに診察後、治療開始後に面談を行う(がん患者指導管理料イ、ロの算定に繋げる) ・脱毛相談会の個別相談継続
			5免疫療法副作用早期発見チェックリスト作成 運用開始	・免疫療法副作用早期発見チェックリスト作成 運用開始

部 門		評価項目		Plan(計画) 2024.08
秋田赤十字病院	がん登録	1院内がん登録の精度向上を図る	・実務者は各種研修会等に参加し、知識向上と平均化を図る。 ・登録データの品質管理を定期的に行う。	
		2院内がん登録データの分析を行う	統計作成やQI研究等の解析を行う。	
	緩和ケア	1緩和ケアの提供体制の評価・改善を図る	1) 緩和ケアセルフチェックプログラムを実施し、緩和ケアチームの活動について評価・改善に取り組む。 2) 緩和ケアチーム・緩和ケア委員会としての活動目標を設定し、緩和ケアにおける多職種連携を強化する。 3) 緩和ケア診療加算算定の再開。 4) 専門的緩和ケアが必要な時期を逃さないよう、苦痛のスクリーニングや患者報告アウトカム等の実施について検討する。	
		2院内・地域のACPを含めた意思決定支援に関する意識啓発を図る	1) 院内のACPを含めた意思決定支援に関する記録及び情報共有方法の検討を行う。 2) 二次医療圏内の地域を対象にしたACPについての講演会開催について検討しを行い、切れ目のない支援の提供に繋げる。	
	地域連携	1地域の医療従事者を対象とした研修会・セミナーを開催する	地域の医療従事者を対象とした研修会・セミナーを開催する。(年1回)	
		2地域の医療従事者とがん関連の症例検討会を開催する	地域の医療従事者とがん関連の症例検討会を開催し、地域との連携強化を推進する。	
		3がん地域連携クリティカルパスの本稼働に向けて取り組む	がん地域連携クリティカルパスの本稼働に向けて取り組む。 ①関係部署とパスのフローチャートを作成し、本稼働に向け周知する。 ②連携する医療機関と協議する。	
	がん相談	1診断初期からのがん相談支援センターの周知	外来初診時から治療開始までをめぐに、がん患者家族が一度はがん相談支援センターを訪問できる体制の整備を検討する。	
		2がん患者コミュニティサロンの開催	がん相談支援センターの相談件数から、患者家族の困りごとを明確にしテーマを選定する。テーマに沿って、がん患者コミュニティサロンを定期的に開催する。	
		3相談支援の質向上	委員会内で、対応事例について多職種の視点で事例検討する。	
	化学療法	1.がん薬物療法における曝露対策を推進する	・病棟での閉鎖式薬物療法移送システム導入に向けた体制の整備と導入。 ①薬物療法を多く取り扱う部署で試行し安全性を検証 ②看護部と連携し取り扱いの研修会を実施し周知する ③取り扱いの手順書・説明書を作成	
		2がん薬物療法オーダリングシステムを安全に実施する	・入院がん薬物療法の安全な実施。 ①レジメン運用マニュアルの周知・運用 ②レジメン運用の安全性を評価、検討する(レジメン、手順など)	
		3.地域医療機関、保険薬局との連携充実	・WEB配信による合同研修会の開催。 保険薬局、地域医療機関に対し、当院で実施するがん薬物療法のレジメン解説や、連携シートの活用例の紹介等、研修会を計画する。	
		4.がんに関する高度な知識と専門性を有する薬剤師の育成	・「日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業暫定研修施設」「日本診療腫瘍薬学会 がん臨床病院連携研修施設」として、定められた期間で効率よく知識・技能を習得できるようカリキュラムを策定し、研修者を受け入れる。	
	放射線療法	1.依頼科・他科との連携	新たにできる治療法の周知を図り、依頼科と連携し、今まで以上に患者の利益が図れるように努める。	
		2.適切な治療計画の立案	個々の患者にあった治療計画を立案し、適切な治療を提供できるよう努める。	
		3.安全・安楽な放射線治療	事故防止や副作用低減などチームとして安全・安楽な治療を提供するよう努める。	
大曲厚生医療センター	がん登録	1.がん登録の精度向上を図る	研修・勉強会等に積極的に参加し知識を深める。	
		2がん登録のデータを活用する	がん登録データを現場へフィードバックする	
	緩和ケア	1 緩和ケア医療連携体制の構築	がん診療連携拠点病院と2次医療圏の非がん診療連携病院との連携を構築する。 大仙・仙北医療圏、横手医療圏、湯沢・雄勝医療圏の間でweb検討会を行う。	
	がん相談	1がん相談支援センターの周知と関係機関との連携強化	がん支援に関わる関係機関と情報共有しながら支援を検討、実践する。 院内がんサロンの実施。	
		2アピアランス支援の充実と就労支援の周知・実施	アピアランス支援の活動を実施。 就労支援における関係機関と連携しながら支援の検討に取り組む。 院内出張相談会の実施。	
		3.がん相談対応能力の向上	相談員対象の研修等に参加し、がん相談支援に関するスキルアップを図る。	
	がん連携	1がん地域連携バス件数を知る	・がん地域連携バス運用拡大を図る。 12件/年以上	
2関係機関との連携強化		がん支援に関わる多職種と情報共有し連携できる。		
平鹿総合病院	1.当院におけるがん診療の現状を把握し、課題を明確にする		各部門の代表者による院内がん連携協議会を開催し、各部門における課題の把握、取り組み進捗状況について報告する。	
	2.各部門の連携を強化する		化学療法の円滑な利用に努める。 ア. 曜日ごとの混雑度を近てん化する イ. 化学療法の患者を一部入院に移行する	
	3.地域とがん診療を連携する		地域とがん診療を連携するために、これまでのがん地域連携バスを有効活用すると共にひらか連携フォーラムにおいて、がん診療に関する話題を提供し、連携を深める。	
能代厚生医療センター	がん相談	1相談援助技術向上・最新知識の習得	各種研修会へ参加・メールや郵送で送られてくるがん関連の書類を確認し、相談援助技術の向上・最新の知識の習得に努める。	
		2県内におけるがん相談周知・拠点病院間のネットワーク強化	秋田県がん相談員担当者会への出席・ワーキンググループ活動に参加し、県内におけるがん相談の周知と他がん診療連携拠点病院とのネットワーク強化を図る。	
		3秋田県がん診療連携拠点病院連絡協議会と連携し、活動を行う。	秋田県がん診療連携拠点病院連絡協議会と連携し、令和6年度地域相談支援フォーラム秋田における企画・広報活動に携わる。	
	がん登録	1がん登録の質の維持、向上を目指す	院内がんSNS等を活用し、精度向上につなげる	
	化学療法	1.irAEへの対応がより迅速に、適切に行われるよう体制を見直ししていく	院内でirAEに対する勉強会を実施し、irAE対策マニュアルについても周知していく。	
		2.がん薬物療法における問題点や課題を抽出し改善していく	当院でのがん薬物療法実施における問題点や課題などを考え改善していくために、医師、薬剤師、看護師、事務部門等、多職種が話し合う場を設け、様々な面からの意見を集約する。	
	緩和ケア	1.早期からの緩和ケア実施	早期からの緩和ケア実施。 ①がん患者入院時全員に苦痛のスクリーニング ②苦痛ありに担当看護師が対応し記録に残す ③専門的緩和ケア必要な患者へ緩和ケアチーム介入	
		2.チーム医療の推進	チーム医療の推進 ①多職種の緩和ケアチーム回診(週1、依頼時、状態変化時) ②多職種のチームカンファレンス(週1) ③院内、院外において多職種の緩和ケアチーム活動	
		3.緩和ケアの感性・知識を持つスタッフの育成	緩和ケアの感性・知識を持つスタッフの育成 ①院内勉強会(5回/年) ②緩和ケア通信発行・HP掲載(年4回) ③秋田県緩和ケアチームWEBカンファレンス(年4回)	

部 門			評価項目	Plan(計画) 2024.08
拠点部 病院等	由利組合総合病院	病院全体	1院内のがん専門対策部会が連携して、患者主体の診療を提供する	各部会の連携 1)定期的な検討・報告会を行う 2)活動報告会を行う
			2コロナ禍で病院から距離をとっていた患者の拾い上げと診療	コロナ制限明けのがん患者対応 1)がん患者受診方法の確認と、地域住民への説明を行う 2)受診・検査・治療の計画を各部門で協力して行い、かかりつけ医にも情報共有する
		がん登録部会	1.がん登録実務の精度向上を図る	診断から5か月での登録作業の開始を徹底し、提出前にデータの見直しを行う。 研修への参加。
			2.がん登録データを活用して情報提供を行う	登録数の多いがんの相対生存率を算出する。
		緩和ケア部会	1.基本的な緩和ケアの普及	がん診療に携わる全ての医師が令和6年度内に緩和ケア研修を修了する。 ・がん患者の主治医や担当者となる医師に対しては、直接声をかけて参加を促す。 ・当直業務などでがん患者に対する診療を行うことがある医師に対しては、科長会議で周知を図り、参加を促す。
			2.早期からの緩和ケアの提供	全部署で苦痛のスクリーニングを実施し、実施率向上を目指す。 ・各病棟のリンクナースおよび入院支援看護師の協力を得る。 ・対象者は、がんと診断された入院患者とする。 ・スクリーニング陽性患者に対し、多職種で早期に対応していく。
		地域連携部会	1.がん地域バス運用に向けた取り組み	院内関連部署との連携(情報共有、患者説明など)。
				院外関係施設への周知(診療報酬も含めた情報共有)。
		相談支援部会	1がん患者や家族など地域住民ががん相談支援センターの役割・機能を理解し、活用できる	がん相談支援センターの周知。 1)がん相談支援センターのポスター掲示。 2)病院ホームページ・市政だより・新聞で広報 3)由利本荘市中央図書館でポスター掲示、ちらし配布。
				就労支援の体制づくり。 1)両立支援コーディネーター研修参加、就労支援強化 2)就労支援窓口としてポスター掲示・周知・相談支援 3)今年度、ハローワーク本荘と協定締結予定
				がんサロン・患者会の運営・支援。 1)院内・院外がんサロン「おひさま」の開催 2)地域のがん患者会の運営協力。 3)びあサロン「ホッとひといきぶんこ」周知強化
		化学療法部会	1保険薬局との連携の現状と質の評価	保険薬局との連携について現状と質の評価を行い患者指導や情報について改善を検討する。
		放射線治療部会	1.放射線治療の実態調査	当院における放射線治療患者数の推移、診療科別・部位別推移などを把握する。
			2放射線治療装置の品質管理	放射線治療装置の品質管理として、当院の放射線治療に関連する機器の精度管理を行う。
			3多職種連携および患者体験の向上	患者の心理的サポート体制の向上を目的とした多職種連携体制の構築を目指す。
	雄勝中央病院		1.がん登録の情報収集、スキルアップ、解析を行う	1-1 がん登録の情報収集のため、積極的に研修会へ参加する。 1-2 がん登録のスキルアップ、登録精度の向上のため、院内がん登録中級者を一名配置する。 1-3 がん登録データ、QI研究の解析を行う。
			2.苦痛のスクリーニングの効果的な活用と緩和ケア相談介入	苦痛のスクリーニング結果の評価と継続を行い、スクリーニング陽性患者に対する緩和ケア相談及び緩和ケアチームの介入の質の向上。
			3早期からの緩和ケア介入のため、部門連携を図る	3-1 緩和ケア・がん相談について、外来・入退院支援と連携し、早期介入体制を確立する。 3-2 院内外へ、緩和ケア・がん相談について情報提供と啓蒙活動を継続的に実施する。
	北秋田市民病院	がん登録	1.がん登録実務者を育成する	新たになん登録実務初級者認定の取得を目指す
			2.がん登録の精度向上を目指す	実務者のスキルアップを図るため研修会等に参加する
			3.がん登録データを活用して情報提供を行う	部位別登録件数、男女比等について引き続き病院ホームページへ掲載する QI研究へ参加する
		緩和ケア	1. 緩和ケアの質の向上を図る	1) 緩和ケアチームセルフチェックプログラムへ参加し、チーム課題に取り組む 2) 基本的緩和ケア充実のため、研修会の開催
			2. 早期から緩和ケアを受けられる体制整備	1)リンクナースと連携し、生活・苦痛のスクリーニングの実施、緩和ケアチームへのアクセスの定着を構築する 2) 緩和ケアチーム介入の流れ(院内がん登録→スクリーニングの実施→必要時チーム依頼など)についてリンクナースの協力のもと各部署で学習会の開催
			3. 意思決定支援を提供できる体制整備	1) ACP・意思決定支援に関する研修会の開催 2) ACPについて周知を図り、意思決定支援のサポート体制を構築する
		化学療法	1 外来化学療法の質向上	保険薬局とのがん化学療法に関する研修会の開催。
			2 入院化学療法の質向上	院内の職員を対象としたがん化学療法に関する研修会の開催。
		地域連携	1.がん地域連携クリティカルバスの普及	5大がん連携バスの登録件数増加に向け、市民にむけた周知活動としてWebサイトへ掲載する
			2.地域連携の強化	地域の連携施設への訪問
			3. 職員の知識、技能の向上を図る	関連部署でのタスクと現状を周知する
		がん相談	1. がん患者や家族、地域住民へ診断初期からのがん相談支援センターの周知	1) 外来初診時から治療開始までをめぐり一度は、がん相談支援センターを訪問することができる体制を構築する 2) がん相談センターについて、地域の医療機関などリーフレット配布、院内へ案内ポスターを掲示する
			2. がん患者サロンの運営	がん患者サロンの継続・運営 1)院内サロン「あじさい」の開催 開催主体と目的を再構築する 2)地域のがん患者会との連携
			3. がん相談対応能力の向上	相談員対象の研修に参加し、がん相談支援に関するスキルアップを図る
	市立秋田総合病院		1.がん登録データおよび5年相対生存率についてホームページ掲載データの更新	がん登録データ、5年および10年相対生存率について、ホームページ掲載データの更新と院内への周知を図る
			2.irAE対策チーム活動の実践	irAE対策としてチーム医療の実践
			3.入院時苦痛のスクリーニング実施率50%	生活のしやすさに関する質問表を用いた入院時スクリーニング実施率50%
			4.がん相談件数500件	がん相談支援センターのPRと院内周知
	中通総合病院		1患者の希望に沿ったケアが受けれるよう、当院のがん診療の現状を把握し、課題を明確にする	院内のホスピス転院の現状を把握し、課題を抽出する
			2患者の安心・安全な化学療法のため、環境の整備やシステム作りを行う	1. インシデント・アクシデント事例への対応を行う 2. 化学療法患者のより良いケアのため、個々の状態を踏まえた指導ができるよう看護師、薬剤師、管理栄養士と連携を図る。(連携充実加算の維持)